

都市再生整備計画 事後評価シート

100万人交流シンボルエリア地区

平成26年3月

山形県最上町

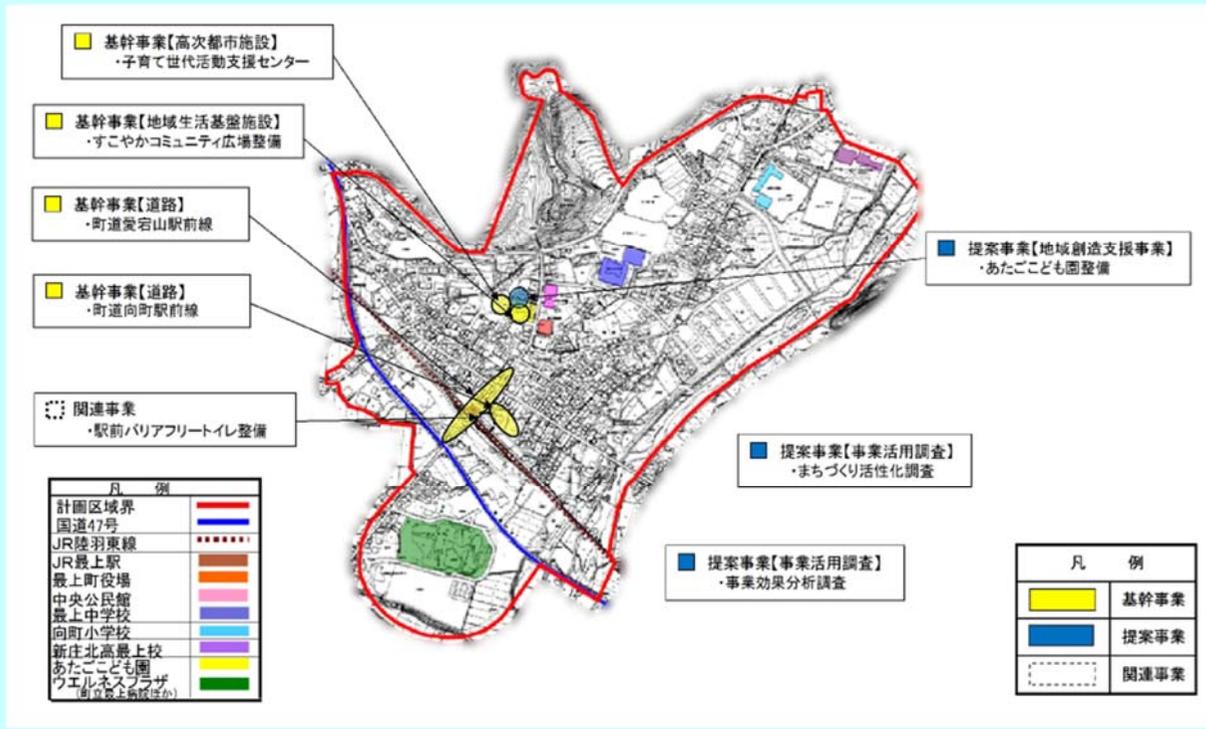
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山形県	市町村名	最上町	地区名	100万人交流シンボルエリア地区			面積	115ha				
交付期間	平成20年度～平成25年度	事後評価実施時期	平成25年度	交付対象事業費	957.7百万円	国費率	0.387						
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路事業(町道愛宕山駅前線)、地域生活基盤施設事業(すこやかコミュニティ広場整備)、高質空間形成施設(駅前パリアフリートイレ)、高次都市施設(子育て世代活動支援センター整備)										
		提案事業	地域創造支援事業(あたごども園整備、デマンド交通システム整備事業)、事業活用調査(まちづくり活性化調査、事業効果分析調査)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	高質空間形成施設(駅前パリアフリートイレ)	削除/追加の理由 トイレ機能について、周辺住民及びJRとの協議を行った結果、今後の管理運営と利便性を考慮し、駅公民館へ併設することが望ましいとされたため、関連事業に位置づけることとし、基幹事業から削除した。			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 「指標1:健康増進が他施設利用者数」「指標2:住環境の満足度」に関係するが、数値目標は据え置く。						
		提案事業	地域創造支援事業(デマンド交通システム整備事業)	交通事業者との合意形成が進まず、設備投資を抑制した手法が台頭していることから、再検討が必要となり、現計画での事業実施が困難となったため削除した。			「指標1:健康増進型施設利用者数」「指標2:居住環境の満足度」に関係するが、数値目標は据え置く。						
	新たに追加した事業	基幹事業	道路事業(町道向町駅前線)	基幹事業である町道愛宕山駅前線の改良整備事業に併せて、交通結節点の機能強化やアクセス環境改善を図るため、狭幅員区間であった接続部分から町駅前駐車場までの区間改良を追加した。			「指標2:地域の資源」「指標3:住みよさ」に関係するが、数値目標は据え置く。						
		提案事業	-	-			-						
交付期間の変更	当初 変更	平成20年度～平成24年度 平成20年度～平成25年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	影響なし									
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値 基準年度	目標値 目標年度	数値 モニタリング 評価値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期		
	指標1	健康増進型施設利用者数	人/年	72,984	H18	80,000	H25	70,995	△	あり なし	● ●	中心市街地と健康増進型施設の交通アクセス環境は改善され、利用促進に寄与している。また、中心市街地の道路やトイレ整備により利用環境が向上した。これらにより入浴利用者数は増加しているものの、人口減少に加え、年間約3,000人の利用があった一部施設の廃止により施設全体の利用者数については目標値の達成に至らなかった。	H26.4
	指標2	住環境の満足度	%	29.0	H18	35.0	H25	48.7	○	あり なし	● ●	中心市街地への交通アクセス環境の改善及び子育て環境の改善が図られたことにより、満足度が改善し目標を達成した。但し、東日本大震災で当町での住環境への被災状況が少なかったことも住環境の満足度の評価に影響していると考えられる。	-
	指標3	子育て支援事業への参加者数	人/年	5,704	H18	7,000	H25	10,459	○	あり なし	● ●	教育・保育を一体的に提供する「あたごども園」と子育て世代を支援する施設を一体的に整備し、子育て環境の充実が図られ、子育て世代の交流が活発化し、子育て支援事業への参加者数増加に寄与しており、目標値を達成した。	H26.4
	指標4									あり なし			
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値 基準年度	目標値 目標年度	数値 モニタリング 評価値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期		
	その他の数値指標1	ウェルネスプラザの利用機会が増加すると思う住民の割合	%	-	-			53.0	/	/	●	中心市街地と健康増進型施設の交通アクセス環境が改善されたほか、中心市街地の道路やトイレ整備により、半数以上の住民がウェルネスプラザの利用機会が増加すると思っている。	-
	その他の数値指標2	向町の暮らしやすさが改善されると思う住民の割合	%	-	-			56.7	/	/	●	中心市街地への交通アクセス改善や子育て支援施設整備を実施したことにより、半数以上の住民が暮らしやすさの改善に結びついていると捉えている。	-
その他の数値指標3	子育て環境が向上したと思う子育て施設利用者の割合	%	-	-			58.8	/	/	●	子育て支援センターやあたごども園、すこやか広場整備により、利用者の半数以上が子育て環境が改善されたと考えている。	-	
4) 定性的な効果発現状況	-												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-					
	住民参加プロセス	100万人交流シンボルエリア整備検討委員		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 都市再生整備計画期間終了後も100万人交流シンボルエリア整備検討委員会を開催し、地域住民主体のまちづくり活動を実施する。					
	持続的なまちづくり体制の構築	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-					

様式2-2 地区の概要

100万人交流シンボルエリア地区(山形県最上町) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
<p>【大目標】本町が誇るウェルネスプラザと中心市街地との有機的な機能の連携・協働によって、町民福祉の向上に寄与するとともに、広域的な展開を視野に入れた100万人交流の実現へつなげるため、より強固な健康・交流シンボルゾーンとしての都市機能を確立する。</p> <p>(目標1) 高齢者や子育て世代における主体的なまちづくりを可能にするための環境基盤を整備し、元気で活気あるまちをつくる。</p> <p>(目標2) 未利用地の高度利用や中心商店街の活性化にむけた条件整備、既存施設の活用をとおして、100万人交流シンボルゾーンにふさわしいにぎわいと魅力ある中心市街地を再生する。</p> <p>(目標3) 交流の玄関口としての交通結節点の機能強化やアクセス環境の整備をとおして、中心市街地の玄関口としてふさわしい環境を整備する。</p>	健康増進型施設利用者数	単位:人/年	72,984	H18	80,000	H25	70,995	H25
	住環境の満足度	単位:%	29.0	H18	35.0	H25	48.7	H25
	子育て支援事業への参加者数	単位:人/年	5,704	H18	7,000	H25	10,459	H25
	ウェルネスプラザの利用機会が増加すると思う住民の割合	単位:%	-	-	-	-	53.0	H25
	向町の暮らしやすさが改善されると思う住民の割合	単位:%	-	-	-	-	56.7	H25
	子育て環境が向上したと思う子育て施設利用者の割合	単位:%	-	-	-	-	58.8	H25



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・愛宕山駅前線整備により、ウェルネスプラザと中心市街地のアクセスが大幅に改善された。 ・子育て世代活動支援センターやすこやかコミュニティ広場、あたごこども園の整備により、子育てを支援する環境の改善が図られた。 ・まちづくり活性化調査により、健康をテーマとしたイベント等が展開されているが、更なる交流促進が求められる。 ・本事業により施設の利用促進や町外、県外からの利用者による交流機会の増加が見られるなど一定の効果が得られたものの、中心市街地における定住人口の維持・増加が必要である。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス道路等の整備により形成された空間を維持するための活動と冬期間の雪対策を行う。 ・整備された施設を活用した子育て支援事業について、利用者ニーズを見据えながら必要な改善を行う。 ・中心市街地において、健康をテーマとしたまちづくりが展開されており、これらの活動の維持・向上を図るとともに、改善されたアクセス環境を活かしながら、ウェルネスプラザと中心市街地を一体的な会場としたイベント開催などを展開する。 ・中心市街地の定住人口確保に向け、地域資源を活用した若者を中心とした定住環境の整備として、良好な住宅ストックを形成及び、安心安全な住環境の整備を行う。